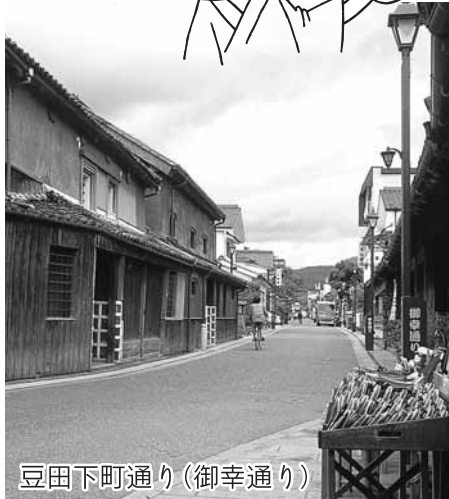


町なみ散策をさらに楽しくする

豆田まめ知識

かわら版



豆田下町通り(御幸通り)



豆田上町通り

平成12年 下町通り(御幸通り)は電線類の地下埋設工事完成。
 平成13年 国土交通省の「美しい町並大賞」を受賞。
 平成16年 『重要伝統的建造物群保存地区に選定。』
 平成21年 上町通りの無電柱化工事完成。

豆田地区(約10.7ha)は、歴史的町並みが評価され、平成16年12月『重要伝統的建造物群保存地区』(伝建地区)として国の選定を受けました。これは、「古い町並みを大事にしよう。」という国の取り組みです。時代の流れの中で、一度は静かになってしまった豆田町でしたが、今、豆田の人達は古い歴史を持つ町並みを大切に守りながら生かしていると考えています。

伝統的建造物群保存事業による修理事業

(平成22年3月末現在)

平成17年以降、古い町並みにマッチした修理を行った建物です。特に伝建特定の建物は昔のままに復原修理を行っています。



①長福寺経蔵



②長福寺山門



③豊福家塀



④高田家主屋



⑤岩澤家主屋



⑥若の屋(三階建て)



⑦諫山家座敷



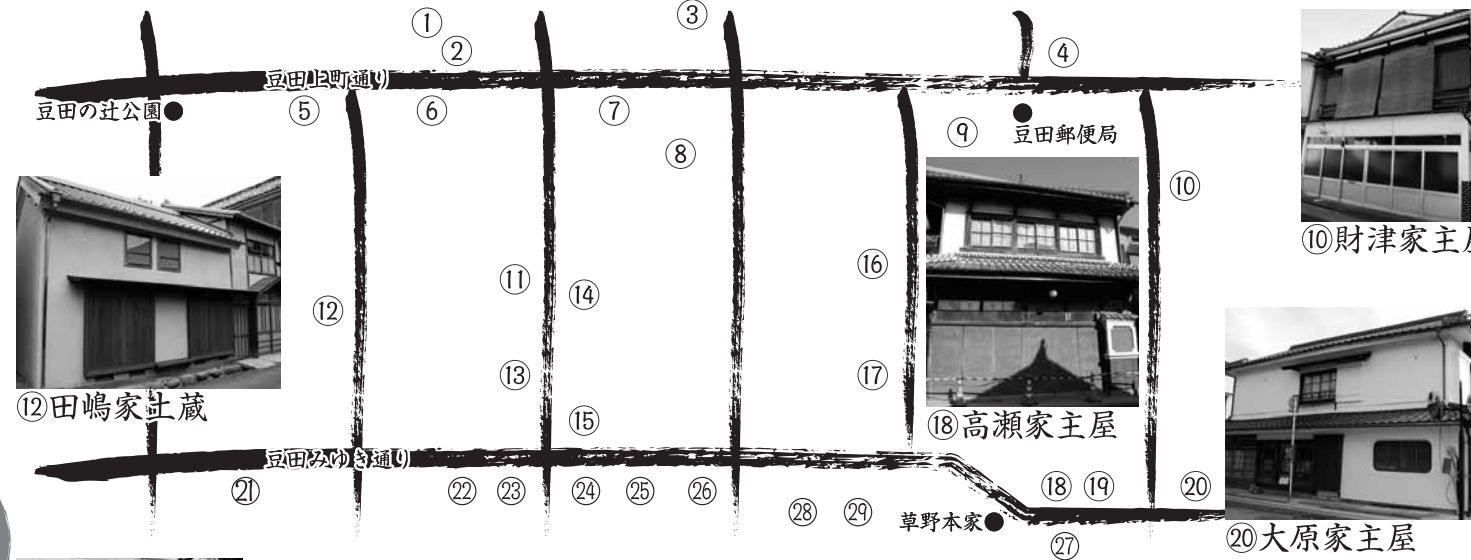
⑧河津家主屋・門



⑨小山家主屋



⑩梶原家主屋



⑫田嶋家辻蔵



⑱高瀬家主屋



⑩財津家主屋



⑳大原家主屋



⑬長嶋家主屋



⑭宮原家主屋



⑮横尾家主屋



⑯広瀬家座敷



⑰松原家長屋



⑱諫山家・桜木家長屋



⑳石丸家主屋



㉑水田家店舗



㉒水田家主屋



㉓小林家貸家



㉕有村家主屋



㉖草野家主屋



㉗福沢家主屋



㉘横山家土蔵



㉙岩尾家土蔵

豆田町の歴史

江戸時代の始め、豆田町は丸山町という名前でお城を中心にしてきた城下町でした。丸山城はのちに永山城と呼ばれるようになり、町の名前も永山町になりました。

一六三九年には日田は天領となり永山城の麓に代官所(通称永山布政所)が設置され、花月川南側の町は豆田町と呼ばれるようになりました。

日田は数度の大名領や大名預かり地の時代を挟みつつ幕末まで徳川幕府の直轄地として重要視されました。天領は全国に約五十ヶ所ありましたが、特に重要な場所四ヶ所には「郡代役所」が置かれました。(江戸・高山・笠松・日田) 明和四年(一七六七)日田は「西国筋郡代」に昇格し九州大名のお目付け役となり大変重要な役割を果たしました。

山紫水明で豊かな土地、しかも北部九州のほぼ真ん中にある日田は、交通の要所でした。代官所のお膝元にあった豆田町には各地から大名や商人が集まりひととき賑わいをみせていました。

豆田町の商人達は全国から集まる大名などを相手に商売をし、大活躍をして豊かになりました。こうして豆田町は商家町として繁栄していったのです。

ところが、明治時代に入り江戸幕府がなくなると大名・商人達の行き来もなくなり、豆田町は少しずつ静かな町になっていきました。しかし、昭和50年代に入り、古い町並みを活かした町づくりが進められ、昭和54年の天領まつりの開始、昭和59年のお雛まつりの開始、平成2年の山鉾完全復活などの取り組みがなされ、町に活気が戻って来ました。